いいたてむら

飯舘村

令和６年の
プロフィール

飯舘村

いいたてむら 令和６年のプロフィール

明日が待ち遠しくなるような、わくわくする楽しいふるさとを目指して

総面積 230.13㎢
東西 15.2㎞　南北 16.8㎞
周囲 65㎞

役場位置　東経 140 度 45 分
北緯 37 度 40 分
標高 488.8 m

飯舘村は、福島県の地域区分から「浜通り地域」に属し、県の東北部、阿武隈山系北部の丘陵地帯に広がる標高 220 m～ 600 mに生活基盤をもつ農山村である。高い山や険しい谷はほとんどなく、比較的平坦な山が連なる高原的地形となっている。

年平均気温 10℃前後、年間降水量 1,300㎜、気候は比較的夏は涼しく、冬は降雪が少ないものの、氷点下 15℃以下になる日も年に数日あるなど、寒さが厳しい地域である。

村章：外円は村民の和を、半円は広大な村土を表し、中心は山林資源と力強い発展を示したものです。それらを踏まえ、全体では、限りなく伸びゆく飯舘村の未来を象徴しています。

村の木・アカマツ　　村の花・ヤマユリ　　村の鳥・ウグイス

人口　世帯数

令和６年４月１日現在
4,608人　（1,802世帯）

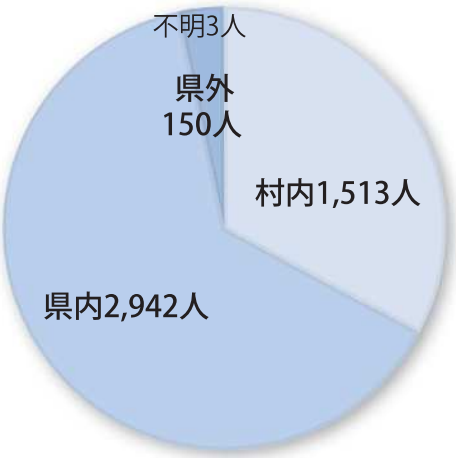
住民基本台帳上の人口及び世帯数です。

震災の直前にあたる平成23年２月末現在の人口は6,509人、世帯数は1,958世帯だった。避難先では、住宅の事情や通勤通学の都合などから、多くの世帯が複数に分離して生活せざるを得なくなった。

平成29年３月末の避難指示解除（長泥地区を除く）後は、村内の自宅に戻った人、避難先に留まって暮らす人、両方を行き来して生活する人など、暮らし方が多様になり、その形は今もゆるやかに変化を続けている。また、避難指示解除後に定住を目的として村に移住した人は令和５年２月現在で140人となっている。

居住地

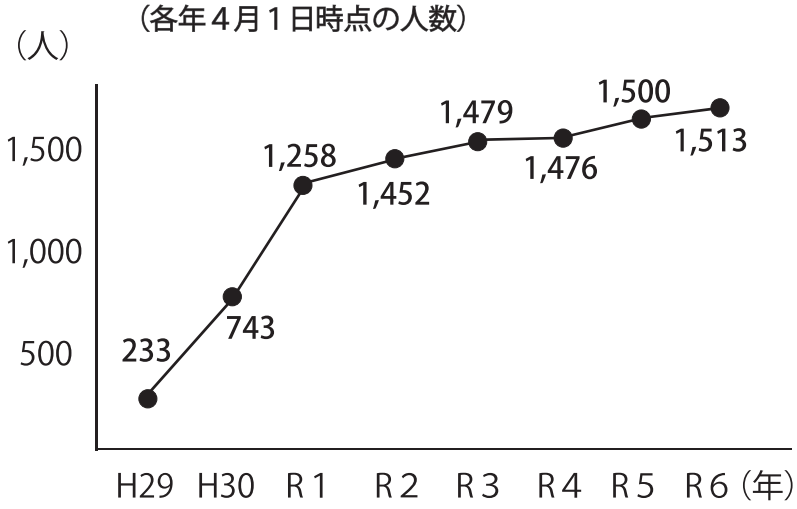
令和６年４月１日現在
（届け出による集計）



村内居住者

（定住を目的とした移住者も含みます）

避難指示解除後の推移
（各年４月１日時点の人数）



震災前の飯舘村

村の沿革等

昭和 31 年 9 月 30 日に旧大舘村・飯曽村の 2 ヵ村合併で飯舘村が誕生した。人口・面積ともに同規模の 2 ヵ村が合併したため、旧村意識が強く、この時の合併のしこりを克服するために多くの労力を要した。例）役場も本庁と支所が必要、中学校も 2 つ、診療所も 2 ヵ所。

このため村第 3 次総合振興計画（計画期間：昭和 60 年度～平成 6 年度）では役場や中学校、統合診療所、総合運動場などを村の中心部（旧村の境）に集約する通称「センター地区構想」を掲げるとともに、村を支える 30 代 40 代を計画策定の主要メンバーとする住民主体の村づくりを進めた。

子育てクーポン

震災以前の村づくり

1 基本理念　豊さの尺度は、外から与えられるものではなく自分自身の中にあることを理念に掲げた。都市の後追いではない、身の回りの豊かさに着目し、魅力を掘り起こすことによって、自らの力で、豊かな暮らしと地域社会を築き上げる内発的発展を目指した。

2 村民主体の村づくり　飯舘村第 3 次総合振興計画（昭和 58 年策定）、飯舘村第 4 次総合振興計画（平成 6 年策定）においては、村民のあらゆる階層から多くの参画によって策定をしている。第 5 次総合振興計画（平成 16 年策定）では、 5 つの部会を設け村民主体の策定を進めるとともに、20 行政区それぞれに地区別計画を策定し、地域資源の掘り起こしやコミュニティの育成を進めた。これら住民主体の村づくりは、「平成の合併」にかかる自主・自律の議論ともあいまって住民自治への関心や自治意識の高まりへと繋がった。村では総合計画をはじめとし、村の主要問題の検討についても村民の参画する機会を多く設け、結果として、実行段階においても多くの村民の関わりにより実施されることとなり、村民の村づくりに対する関心、ひいては村の行政運営への参画へと繋がってきた。

凍み文化の伝統食

3 地域づくり運動

飯舘村には 20 の行政区があり、行政区を単位とした地域づくり運動を平成 2 年度から実施。地区の主体的な地域づくり事業に対し、一地区あたり 10 年間で 1 千万円を限度として村が補助金を交付している。地域づくり運動を通して、住民の郷土愛や連帯感の醸成が図られることを狙いとするとともに、検討プロセスを通して地区内での新しい担い手の発掘に繋がっている。

県内初のどぶろく特区

花卉販売総額１億円突破

海洋アドベンチャースクール

村民体育大会

牛肉フェスティバル

「ふくしま駅伝」村の部 10 連覇

女性の海外研修「若妻の翼」

飯舘牛をはじめまでいブランド確立事業を展開

■第一次産業■　農業の主要作物は、水稲、畜産、野菜、花卉である。村は古くからヤマセによる冷害に悩まされてきたことから、冷害に強い作目として畜産振興（特に和牛の繁殖）に力を注ぎ、「飯舘牛」のブランド化に村を挙げて取り組んできた。また、高冷地の特色を生かした野菜・花卉の振興に力を入れ、冷害等に強く危険分散も兼ね複合経営を推進していた。原子力災害によって長年培われてきた「いいたてブランド」が失われたことが、何よりも残念である。

■第二次産業■　精密器具製造、縫製、弱電関係、建設関係事業所等の生産が伸びる傾向にあった。

■第三次産業■　商業については、近隣市町での購買が年々増加傾向にあった。都市住民等との交流によるサービス産業の振興に力を入れていた。

震災と原発事故による被災

原子力災害の対応

平成 23 年 3 月 11 日、東日本大震災が発生。発生直後は浜通り市町からの避難民があふれ、避難所の開設や受入れ対応に追われたが、福島第 1 原子力発電所の爆発事故により、村全土に放射性物質が降散し、一転全村避難を強いられることとなった。

村は、年間被ばく線量が 20 ミリシーベルトを超える恐れがあるとして、4 月 22 日に計画的避難区域に指定された。他の市町村がすでに避難先を見つけてからの避難となったため、村民の避難先の確保に苦慮した。国から栃木県や群馬県なども紹介されたが、避難後の生活や地域コミュニティの維持など「生活の変化のリスク」をなるべく少なくするために、村から車でおおむね 1 時間圏内で探すよう当時の村長から指示を受け、福島市近辺の温泉やホテル、研修施設などを避難先に探した。

後発的避難であったことから、避難先を探すことについては苦慮したものの、村から 1 時間以内の距離で 1 次避難先を探したことは、学校が村外（川俣町）で再開したこと、屋内作業を行う事業所（9 事業所）の継続操業を可能とし、結果として、村民の約 8 割が福島市や伊達市、川俣町など村から 1 時間圏内に避難先を探すこととなった。

このことは、仮設住宅の設置場所や避難先でのコミュニティの維持、見守り隊による自主防犯活動など、①まとまって避難していること、②村に通える距離に住んでいること、という利点が生かされ、様々な活動につながった。村としても、住民の個々のつながりや地域コミュニティを重視し、仮設住宅の配置には避難する村民の血縁関係や交友関係なども考慮して配置を行った。

また、仮設住宅ごと・避難先方部ごとに自治会活動を奨励し、村民のつながりやコミュニティを維持する取り組みを進めた。まとまって避難していることにより、役場も福島市飯野町の旧飯野町役場を部分使用させていただいたことで分散させずに済み、学校も福島市飯野町に仮設中学校を、川俣町に 3 小学校の仮設校舎を建設し、教育についても一定程度の機能維持を図ることができた。この他、村からの説明会や懇談会もこまめに行うことが可能となり、村の求心力維持につながった。

停電の中の災害対策本部会議

スクリーニング検査

飯舘全村見守り隊を結成

希望者を対象に緊急避難を実施
（栃木県鹿沼市へ）

平成 23 年 9 月 1 日現在の村民の状況

1. 現 住 人 口 ＝ **5,984 人**
（基 数）
（平成 22 年 12 月 1 日現在）
※国勢調査人口に異動反映した数

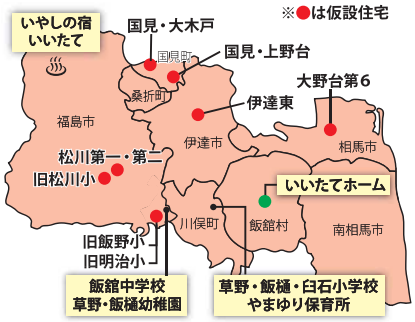
2. 避 難 者 数 ＝ **6,628 人**
※震災当時住んでいた人・転出者等含む

3. 未避難者数 ＝ 19 人（14 世帯）

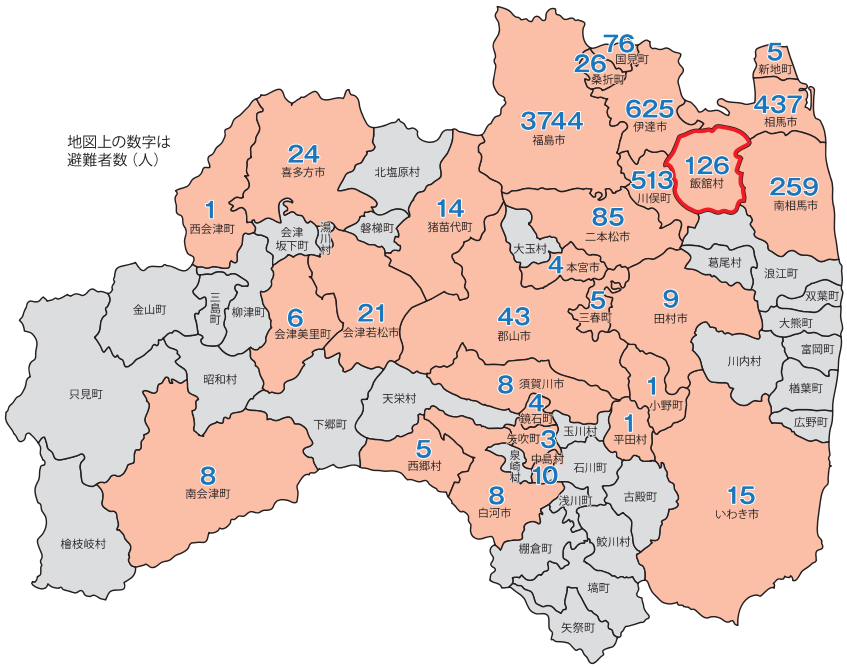
●県内外の避難状況

- 県内　避難人数…5,960 人　避難世帯数…2,509 戸
- 県外　避難人数…　536 人　避難世帯数…　295 戸
- 国外　避難人数…　　4 人　避難世帯数…　　2 戸
- いいたてホーム　人数…　107人　世帯数…　107戸
- 村内　人数…　126人　世帯数…　121戸

避難施設位置図



地図上の数字は
避難者数（人）



	施設名	世帯数
1	伊達東応急仮設住宅	75
2	旧飯野小応急仮設住宅	35
3	旧明治小応急仮設住宅	30
4	国見大木戸応急仮設住宅	10
5	国見上野台応急仮設住宅	23
6	松川第一応急仮設住宅	101
7	松川第二応急仮設住宅	98
8	旧松川小応急仮設住宅	42
9	相馬市大野台第 6 仮設住宅	165
	仮設住宅（1 ～ 9）　合計	579
10	公的宿舎	209
11	借り上げ住宅（公的宿舎以外）	1,434
12	いいたてホーム	107
	その他施設（10 ～ 12）合計	1,750
	全施設（1 ～ 12）　合計	2,329

未避難	14

（平成 23 年 9 月 1 日現在）

●応急仮設住宅の避難状況
入居世帯数……579戸
入居人数　…1,209人

●県借り上げ住宅（公的宿舎以外）の避難状況
入居世帯数…1,434戸
入居人数　…3,684人

●公的宿舎の避難状況
入居世帯数…209戸
入居人数　…638人

仮設住宅への入居

避難指示区域の見直し

前例のない除染は工程の策定にも時間を要し、村が望んだ早期の帰還は叶わなかった。国は、震災の翌年、平成 24 年7月 17 日に、空間線量率に基づく避難指示区域の見直しを実施。この区域見直しに伴い、帰還困難区域にバリケードが設置された。

■避難指示解除準備区域
■居住制限区域
■帰還困難区域

役場機能を飯野出張所に移転

全村避難となった飯舘村

６年間に及んだ避難生活

一次避難を経て、応急仮設住宅や借り上げ住宅等での避難生活が始まった。地域が支え合い、高齢者が生きがいを持って活躍していた村民の暮らしは一変し、健康維持とコミュニティの再構築が大きな課題となった。

避難が長期化する中、仮設住宅ごとの自治会、避難方部ごとの自治会が村と連携してさまざまな活動に取り組み、村民相互の支え合いは、困難な避難生活を乗り越える大きな力となった。

学校、幼稚園は、川俣町及び福島市飯野町に仮設校舎・園舎を建設し、環境の制約を受けながらも充実した教育活動・保育活動を展開した。

中学生の海外研修「未来への翼」

避難先での敬老会

運動教室を多会場で定期開催

リスコミ新聞を発行

福島市で「村民ふれあい集会」を開催

恒例の「までいラリーピンポン交流会」を避難先でも継続

「いっとき帰宅バス」を運行

草野・飯樋幼稚園

草野・飯樋・臼石小学校

避難先で自前の給食を再開

飯舘中学校（仮設校舎開校式）

福島市飯野町に復興公営住宅を建設

仮設住宅自治会が交流行事を開催

福島市に子育て支援センターを開設

仮設住民が大雪で立ち往生の車列に炊き出しをして話題に

仮設住宅の夏祭りで地域と交流

避難指示解除に向けて

復興計画

村は地震被害及び原子力災害の全村避難により、村の将来を考えるうえで様々な検討を重ねた。まず参考としたのは、有毒ガスで全村避難となった東京都三宅村と、中越地震で全村避難となった新潟県山古志村の事例である。ともに、４年余りで帰村しているが帰村率はともに６割であった。この事例から学んだことは、全村避難を経験すると決して元には戻らないということである。

このことを踏まえ、村民個々にそれぞれ考えが異なる「原子力災害の特異性」を踏まえ、村民一人ひとりに寄り添うことを柱とする「いいたて　までいな復興計画」を策定した。策定にあたっては村民の若手や有識者、村を応援していただける方々を検討委員としており、様々な知見を活かすための人選を行っている。

こうしてまとめられた復興計画は「村民一人ひとりの復興を目指す」ことを目標とし、５つの基本方針（◆生命（いのち）を守る ◆子どもたちの未来をつくる◆人と人とがつながる◆原子力災害をのりこえる◆までいブランドを再生する）を定めている。

復興計画は、短期・中期・長期のそれぞれの復興過程で必要な施策を掲げている。第５版まで策定された。

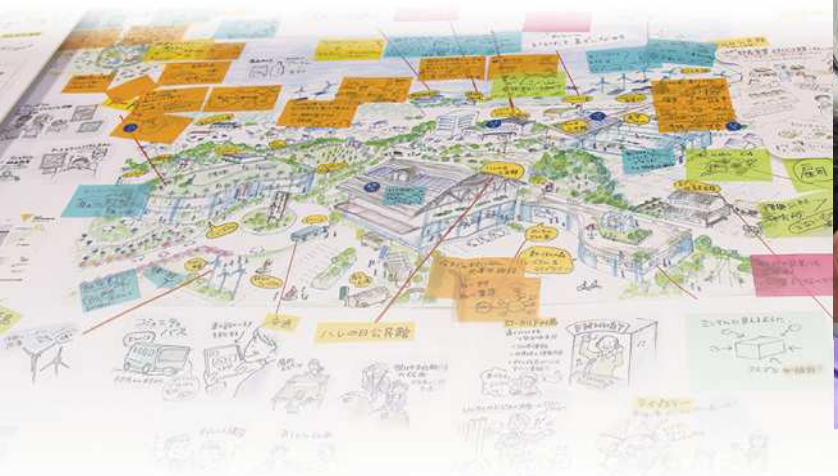
復興の拠点となる交流センター整備や深谷復興拠点の道の駅をはじめとする施設整備、災害公営住宅整備、農業基盤の再生やコミュニティの維持のための各種施策など、福島再生加速化交付金事業並びに被災者支援総合交付金事業を有効に活用させていただいている。

復興計画の名称に用いた「までい」とは、村の第５次総合計画の理念とした「までいライフ」（いいたて版スローライフ）を表す際に、昔から使われてきた方言「までい」を用いたものであるが、「丁寧に」「念入りに」「大切に」といった意味で、持続可能な社会をつくるうえで欠かせない視点を表現していると注目された。

職員の復興ワークショップ

専門部会による計画内容の検討

復興計画推進委員会



村民による復興計画ワークショップ

イグネの伐採

地力回復工事

昇口舗装

家屋解体工事

昇口舗装

令和３年９月末現在
（国・村の事業を活用した工事）

586件

家屋解体

令和３年９月末現在
（国の事業による被災家屋の解体）

948件（一般住宅分）

仮設焼却炉の活用

道路整備

総延長84.6kmの舗装修繕工事を実施
令和６年４月末現在

ため池工事

農業基盤整備

村道機能回復工事

震災を越えて１

いいたて村の道の駅までい館

ふかや風の子広場

ふかや風の子広場
令和２年８月９日オープン
いいたて村のドッグラン「わんこの庭のびのび」
令和３年７月17日オープン
いいたて村の道の駅までい館
平成29年８月12日オープン
飯舘村ライスセンター
令和３年４月15日オープン
役場機能の帰還　平成28年７月１日
先行の一部機能帰還　平成26年４月１日
特別養護老人ホーム「いいたてホーム」
特例で避難せず運営を維持
飯舘村地域防災センター
令和３年開所

飯舘村地域防災センター

いいたてスポーツ公園

ドッグラン「わんこの庭のびのび」

交流センター「ふれ愛館」

いいたて希望の里学園

までいの里のこども園

震災を越えて２

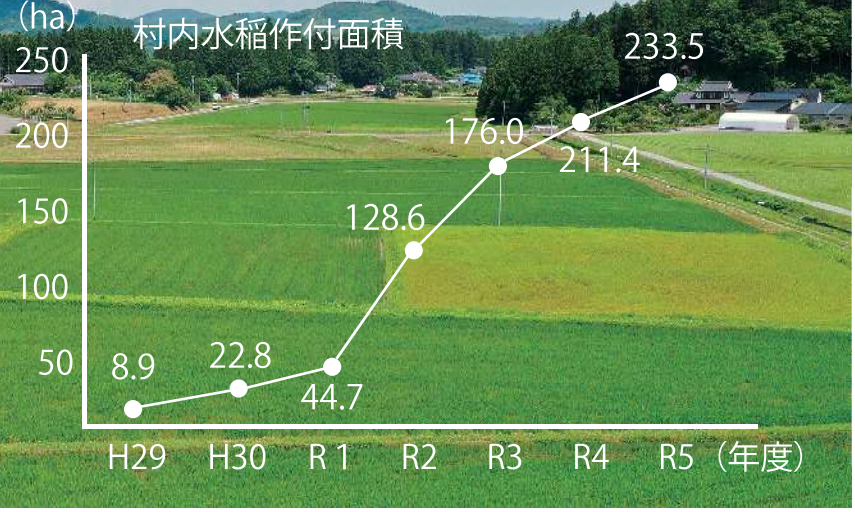
村は、避難指示解除後の産業の再生に、村民と共に取り組んでいる。農業においては、農地の保全や地力回復に始まり、生きがいとしての農業、そしてなりわいとしての農業、さらには新しい技術を用いた農業へとステップアップできる事業を展開している。また、農地の集積や、鳥獣対策も、村民の協力の下で進めている。商業においては新規事業のサポート、企業誘致の取り組みなどを行っている。

２つの幼稚園と保育所は認定こども園に統合、３つの小学校と飯舘中学校は一貫教育の義務教育学校となった。また、村として移住者の受け入れにも力を入れており、累計５人の地域おこし協力隊も定住し活躍している。

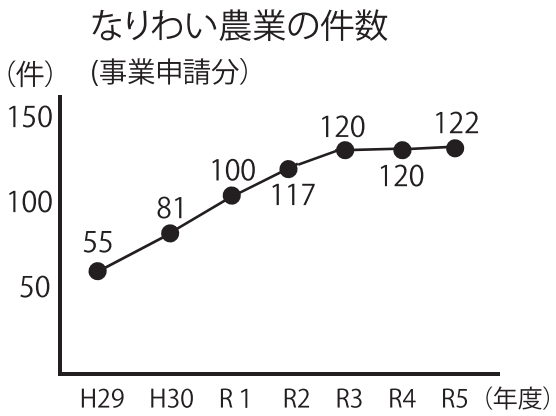
水稲作付

令和５年
水稲作付け

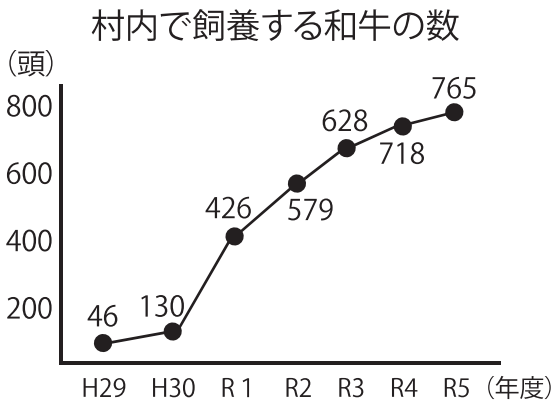
主食用	50.0ha
WCS	56.0ha
飼料用	124.0ha
酒米	3.5ha
合計	233.5ha



なりわい農業 件数



和牛の飼養頭数



事業所数

令和６年３月20日現在

村内再開事業所　57事業所

村外再開事業所　40事業所

計97事業所（震災前の約74%）

村商工会に加盟する事業所の数。村外で再開している事業所も多くが村内の事業に関わっています。

LaKasse（ラカッセ）

あいの沢オートキャンプ場

村カフェ７５３

はやま湖

工房マートル

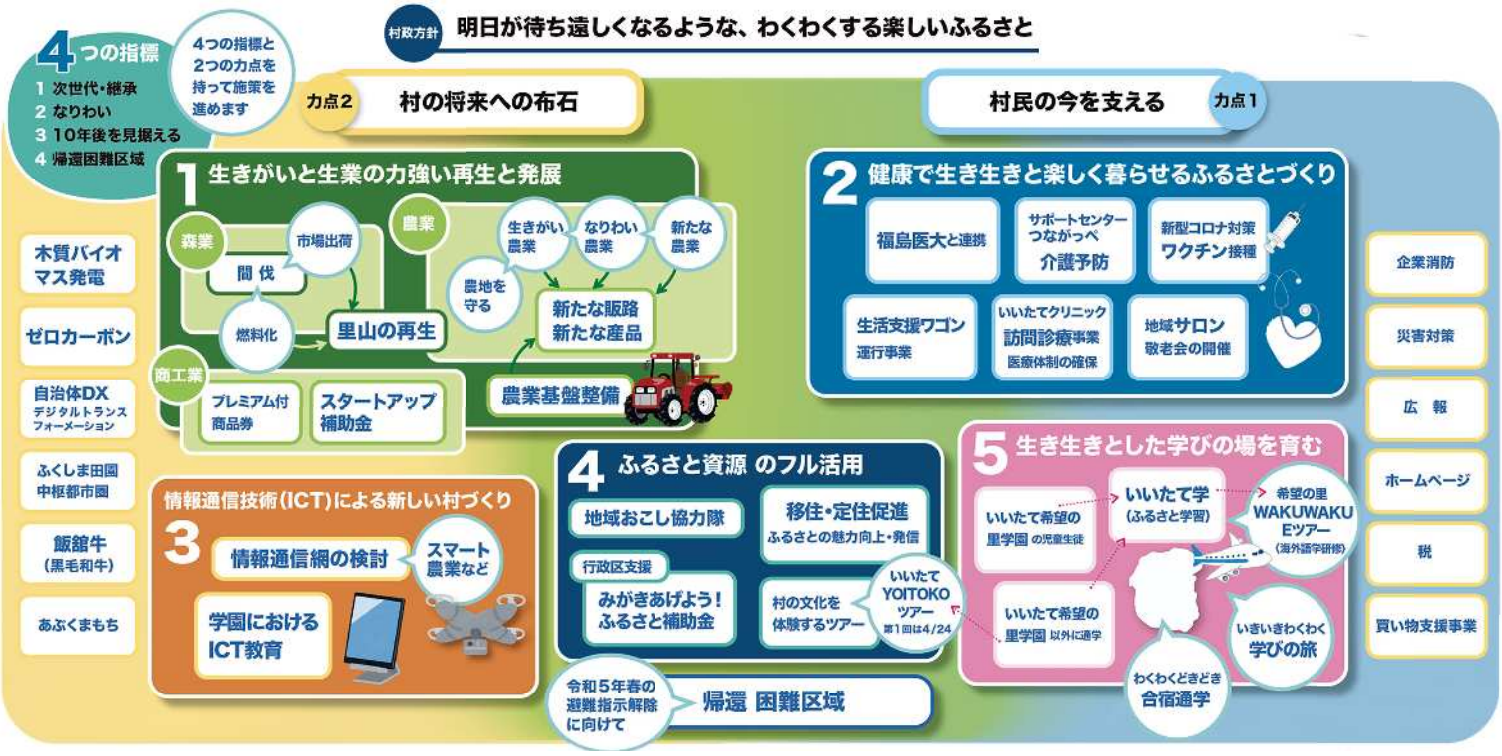
ゲストハウス COCODA

ゑびす庵

いいたてパークゴルフ場

未来への布石

「明日が待ち遠しくなるような、わくわくする楽しいふるさと」の実現に向け、「村民の今を支える取り組み」「村の将来への布石となる取り組み」に力点をおいて事業を進めている。



農地の集積と活用

スマート農業の推進

飯舘 YOITOKO 発見！ツアー

「ふるさとの担い手」の活躍

クロス発電

移住検討者向け「ミチシル旅」

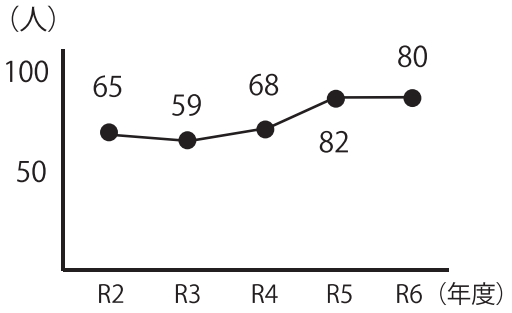
飯舘産黒毛和牛の牛肉の販売

地域おこし協力隊

移住サポートセンターを開設

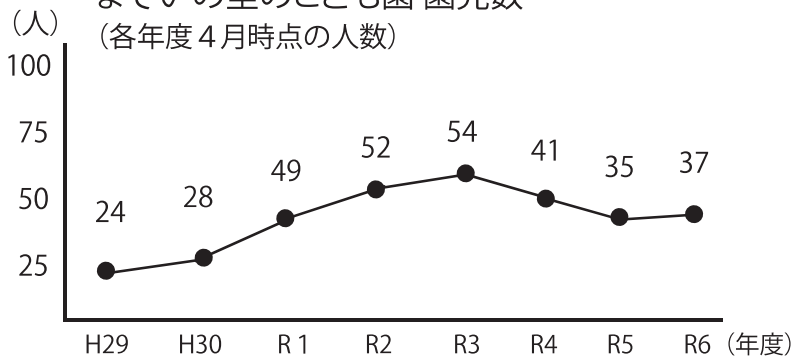
児童生徒

いいたて希望の里学園 児童生徒数
（各年度４月時点の人数）



こども園

までいの里のこども園 園児数
（各年度４月時点の人数）



ＩＣＴ教育の推進

ふるさとを学ぶ「いいたて学」

いきいきわくわく学びの旅

希望の里 WAKUWAKU Ｅツアー

「あぶくまもち」の特産化

林業の再生

訪問診療の充実

福島県立医大との連携

※完成イメージ
木質バイオマス発電事業

サポートセンターつながっぺ

長泥行政区の避難指示解除に向けて

住民が支援者と共に植樹祭を開催

長泥地区集会施設の建設

飯舘村の歩み

昭和 31 年	飯曽・大館 2 村が合併し飯舘村が誕生
昭和 36 年	草野大火で 120 戸を焼失
昭和 38 年	第 1 回「村民体育大会」を開催
	「岩部ダム」が完成
昭和 54 年	村民の森「あいの沢」を開園
昭和 56 年	第 1 回「村まつり」を開催
昭和 60 年	第 1 回「村民総合文化祭」を開催
昭和 61 年	第 1 回「新春村民の集い」を開催
平成元年	第 1 回「若妻の翼」を実施
平成 2 年	センター地区に「総合グラウンド」が完成
平成 3 年	第 1 回過疎地域活性化優良事例として国土庁長官賞を受賞
	計画から 21 年間を要し「真野ダム」が完成
平成 4 年	センター地区に球場が完成
	「ふくしま駅伝」村の部優勝（以降 10 連覇／最高位は総合 5 位）
平成 5 年	「いいたてミート」プラザがオープン
	「ステーキハウスいいたて」がオープン
	戦後最大の冷害に見舞われる
平成 6 年	役場新庁舎での業務開始
	宿泊体験館「きこり」オープン
平成 7 年	「ほんの森いいたて」がオープン
	「畜産技術センター」がオープン
平成 9 年	特別養護老人ホーム「いいたてホーム」を開所
平成 10 年	飯舘家畜市場で最後のせり　37 年間の歴史に幕
	「海洋アドベンチャースクール」を実施
平成 12 年	村内の花卉が販売総額 1 億円を突破
平成 14 年	活性化センター「いちばん館」がオープン
	あいの句碑が完成し園遊会を開催
平成 15 年	市町村合併の賛否を問う住民投票を実施
平成 17 年	県内初のどぶろく特区に認定
	第 5 次総合振興計画で「までいライフ宣言」
	過疎地域自立活性化優良事例表彰で総務大臣賞を受賞
平成 18 年	立村 50 周年を迎え記念行事を開催
平成 22 年	エコヴィレッジハウス「までいな家」完成

平成 23 年	東日本大震災（東北地方太平洋沖地震）発災
	災害対策本部を設置
	沿岸地域からの避難者に施設を開放・炊き出し、避難所を設置
	計画的避難区域に指定される
	川俣町内の校舎・園舎を間借りし学校と幼稚園を再開
	「いいたてホーム」など村内 9 事業所の操業継続を国が承認
	村役場機能を福島市飯野町に移転　飯野出張所を開設
	「未来への翼」事業で中学生が海外研修
平成 24 年	第 1 回「いいたて村民ふれあい集会」を開催
	草野・飯樋・臼石小学校　仮設校舎開校式
	飯舘中学校　仮設校舎開校式
	福島市で「いいたて村文化祭」を開催
平成 25 年	秋篠宮ご夫妻が飯舘中学校をご訪問
	全国広報コンクールで内閣総理大臣賞を受賞
	天皇皇后両陛下が小学校と菊池製作所をご訪問
平成 26 年	大雪被害　対策本部を設置
	村役場本庁舎開所式　一部機能を戻す
	福島市に建設した復興公営住宅「飯野町団地」で入居を開始
	いいたて子育て支援センター「すくすく」を福島市に開所
平成 27 年	蕨平地区に受け入れた環境省の「蕨平減容化施設」で火入れ式
平成 28 年	飯舘村役場で帰庁式　役場機能が本庁舎に戻る
	交流センター「ふれ愛館」を開館
	「いいたてクリニック」が診療を再開
	村制 60 周年記念行事「いいたて 60 祭」を開催
	飯舘中学校　博報省・文部科学大臣賞を受賞
平成 29 年	避難指示解除（帰還困難区域の長泥地区を除く）
	「いいたて村の道の駅までい館」がグランドオープン
	サポートセンター「つながっぺ」を開所
平成 30 年	村内校舎に小中学校が帰還
	「までいの里のこども園」を開園
	「いいたてスポーツ公園」がグランドオープン
令和 2 年	義務教育学校「いいたて希望の里学園」を開校
	「ふかや風の子広場」がオープン
令和 3 年	「いいたてパークゴルフ場」がグランドオープン
	いいたて村のドッグラン「わんこの庭のびのび」がオープン
令和 4 年	「ゼロカーボンビレッジいいたて」を宣言
	「飯舘村移住サポートセンター」を開所

飯舘村 令和６年のプロフィール

飯舘村役場
〒 960-1892 福島県相馬郡飯舘村伊丹沢字伊丹沢 580 番地 1　TEL0244-42-1611（代表）　FAX0244-42-1601（代表）

健康福祉課（地域活性化センターいちばん館）
〒 960-1803 福島県相馬郡飯舘村伊丹沢伊丹沢 571
健康係 TEL0244-42-1637　福祉係 TEL0244-42-1633　包括支援センター TEL0244-42-1626

生涯学習課（交流センター「ふれ愛館」）
〒 960-1801 福島県相馬郡飯舘村草野字大師堂 17　TEL0244-42-0072　FAX0244-42-0860